

SBデザインオーバーフロー処理(1/2)

新規作成 2024.03.15
最終更新 2024.05.06

■前提条件

- 各要素のサイズを決定する根源的な条件は、ブラウザの表示領域の大きさと写真のサイズとなる。
 - ブラウザ表示領域の全体をbodyで定義する。
 - bodyの中に写真を収容するときに、最初にブラウザの表示領域と写真のサイズを比較して横方向か縦方向のいずれが制約条件となるかを最初に決定する。
- その制約条件から、写真の表示サイズが決定される。
- 写真とその他の要素を包含する枠組みとしてcontainerのサイズが決定される。
 - 以降、全てのボックスはこのcontainerのサイズ(縦サイズy_c、横サイズx_c)を根拠として定義される。

■CASE1 : y_cは左カラム(写真)のheightによって決定される。

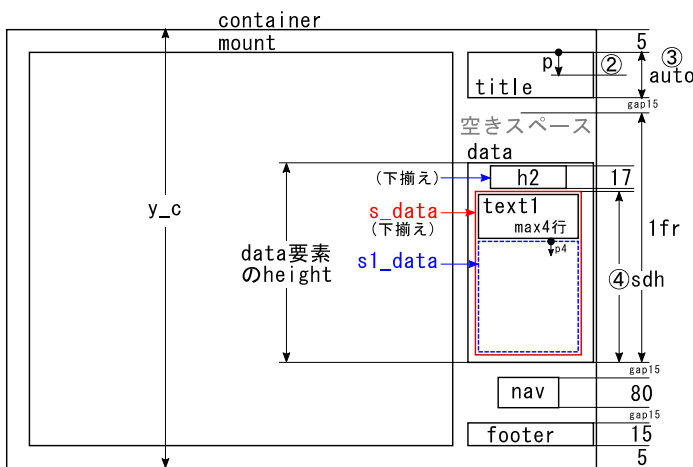


図-1 左カラムがクリティカルとなるケース

■data

- dataはgridの子要素で高さは1frであるが、CSSにalign-self:endが指定されているため、dataのheightは、dataの子要素のheightの合計となる。また、dataボックスは1frの中で下揃え配置される。

■s_data

- s_dataの中にs1_dataの全体を収容することができる。overflowは発生しない。
- text1はスマホ横画面でも表示可能な行数(max4行程度)を目途に記載する(省略も可)

■s1_data

- s1_dataには単純に左上から順にテキストが流し込まれる。
- s1_data要素はオプションで、省略可。
- s1_dataはスマホ横画面では非表示とする。

■CASE2 : y_cは右カラムの最低高と画面表示域の高さによって決定される。

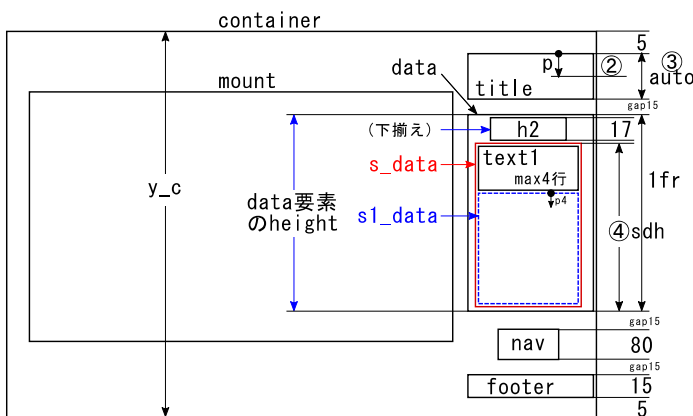


図-2 右カラムがクリティカルとなるケース

■data

- 上下方向の圧迫により、dataのheightはy_cの制限により、取り得る最小値になる。
- dataにalign-self:endを指定して、dataのheight値を発生させる。

■s_data

- s_dataのheight値はdataのheight値による制限を受ける。そのため子要素の全てを収容しきれず、s_dataでoverflowを発生させる。
- s_dataはgrid子要素なのでheightが発生し、overflowの設定ができるが、overflowの処理に際して行の上半分が表示されるようなことを避けるため、s_dataのheightをtext1要素のline-height刻みの高さとなるように動的に設定する。

■s1_data

- s1_dataはs_dataの子要素であり、s_dataのoverflow設定によって途中までの表示となる。しかし、その場合でもs1_data要素としての元々のheight値はそのまま維持される。
- s1_data要素はオプションで、省略可。
- s1_dataはスマホ横画面では非表示とする。

$$\text{sdh1} = \textcircled{4}\text{sdn} = (\text{s_data 要素の高さ})$$

$$\text{sdh2} = \textcircled{4}\text{sdn} = (y_c - 130 - (y_c - y_{vm}) / 2 + 10 + \textcircled{3} + 37)$$